

coffee time

円福寺
東武鉄道一ノ割駅の西にある円福寺は呑竜さまの通称で知られた寺である。呑竜上人は弘治2年(1556)、井上将監信貞の子としてここで生まれた。幼時はこの円福寺で学んで、林西寺で修行、徳川家康が祖新田氏のために太田に泰貞院を建立したとき、開山として招かれた。生家井上家は円福寺の門前にある。



藤塚橋
昭和初期まで、藤塚橋を挟んで上流と下流に二つの渡舟場があり、上流側は三蔵渡と呼ばれていた。藤塚橋の石碑には「昭和8年(1933)坂巻治平ら10名が藤塚橋組合を結成し、資金8百円で有料の木橋を架けた」とあります。この有料の橋は「賃とり橋」とよばれ、昭和29年(1954)に春日部に市制が施工された際に買収され、無料となった。現在の橋は昭和40年(1965)1月1日に架けられた。



善巧寺
大落古利根川(おおおとしふるとながわ)利根川の旧流路のなごりである。名前の「大落」(おおおとし)の意味は農業排水を落とすという意味である。埼玉県久喜市・杉戸町の境界にある葛西橋が起点である。杉戸町・宮代町・春日部市・越谷市・松伏町の境界付近を流れ、松伏町と越谷市の境で中川に合流する。おおむねかつての北葛飾郡と南埼玉郡の郡境となっている(現在は市制をとる地域が多いため異なる)。古利根川は利根川の流路であったが、江戸時代初期に実施された利根川東遷事業によって利根川が東京湾から太平洋に注ぐ河川に付け替えられ、以前の流路は古利根川として残った。

東武鉄道武里駅
この地は昔、下総の国(現在の千葉県の一部)に属しており、旧村にはどの村にも香取神社が祀られていました。明治22年(1889)に7カ村と増田新田を合併し、あらたに武里村を設置しました。明治32年(1899)に開業し大正2年(1913)に現在地に移転され、昭和44年に橋上駅舎で営業が開始されました。駅名の由来は武里村の地名からつけられました。



19 越ヶ谷宿～粕壁宿
埼玉県春日部市
武里～藤塚橋
(歩行距離 1951m 25分)
歩く地図でたどる日光街道
<http://tochigikanko.web.fc2.com/JZE00512@nifty.ne.jp>

8 備後一里塚
日本橋から8里の一里塚。オニキスを過ぎた角に石柱が建っている。昔は左右の塚があり、櫻が植えられていた。「大百姓ノ家有備後の安兵衛と申す庄屋のよしを承候」寛延4年(1751年)盛岡藩士清水秋全著「増補行程記」この石柱に隣接する民家は通称「一里塚屋」と呼ばれ、塚の跡地は明治以後まで石を並べて保存されていたという。

coffee time

備後の名前の由来
弘法大師が備後国から観音を移すとき、行方不明になっていたが、このあたりで見つかったので備後という地名になったという。

coffee time

高札場
幕府や領主が決めた法度や掟書などを木の板札に書き、人目のひくように高く掲げておく場所のこと。高札制度の目的としては、1.新しい法令を民衆に公示する。2.民衆に法の趣旨の周知徹底をはかる。3.基本法であることを明示する(違反者は天下の大罪であるとして、違反者は死罪などの重い刑に処せられることが多かった)4.民衆の遵法精神の涵養を図る。5.民衆からの告訴(密告)の奨励(特にキリシタン札などには高額の賞金が掲げられた)6.幕府や大名の存在感の公示などがあげられる。主な代表的な高札(撰撰、切支丹、火事場、駄賃、雑事)や正徳元年(1711)の5枚の高札(忠孝、切支丹、火付、駄賃、薬毒)、明治維新とともに新政府から出された五榜の掲示などがある。

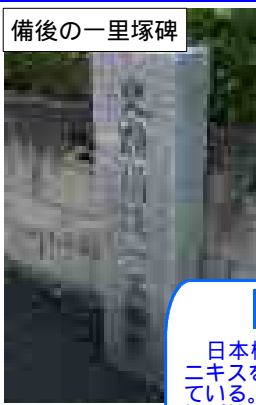
林西寺 卍③
林西寺
「東の方に臨西寺とて浄土宗の寺有。寺領廿五石」(日光駅程見聞雑記)
「大畑大枝村を離れ、備後村に小休み、右の方森あり平方村の浄土宗林齋寺の林なり 御朱印二十五石」(上野下野道の記)道の東350m



coffee time

木戸
宿場の端に設けられ、木戸と木戸の間が宿場とされた。木戸のほかには常夜灯が設置されている場合もあった。夜間は防犯などの目的で閉鎖された。木戸にはそれぞれ「番太郎」「番太」と呼ばれる木戸番が2人いた。老人が多く、番小屋に移住していた。木戸番は夜の四ツ時(午後10時頃)に木戸を閉めた。これは、盗賊や不審者の通行・逃走を防ぐため、夜四ツ時以降、用事のある者は木戸番への「通行人がいる」という通達となった。これを「送り拍子木」と呼んだ。但し、医者や産婆など、人の命にかかわる急用のある者はそのまま通過できた。

喜蔵堤跡
日光道中の古海道(奥州道)であったという喜蔵堤跡があるが、日光道中が使われるようになってからは、川の氾濫を防ぐための堤となりその形状は失われてしまった。



備後の一里塚碑

備後の立場
備後村には立場があり、茶屋が営まれた。

備後須賀神社へ
西へ1.2kmの武里小学校北側にある備後須賀神社は、関東三社稲荷(王子・佐野・備後)の一つで、建暦元年(1211)土地の領主春日部治部少輔が建立したもの。当時はこの辺まで海で、須賀の辺は海中の小島であった。この島から不思議な光が出て漁に困るとの訴えを聞き、調べると小さな観音木造が見つかった。昔、弘法大師が唐から招来し備後国に安置したが、関東へ移る際に船が難破し仏像が行方不明になっていた。稲荷明神のお告げで須賀の島に祀ったものという。この仏像が備後から来たので地名も備後になったという。

武里村
明治22年(1889)4月1日町村制施行により、備後村、一ノ割村、薄谷村、中野村、大場村、大畑村、大枝村、増田新田が合併し南埼玉郡武里村が成立する。昭和29年(1954)7月1日南埼玉郡春日部町、豊春村、北葛飾郡幸松村、豊野村と合併し春日部市となる。

稲荷神社

雷電神社